



未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

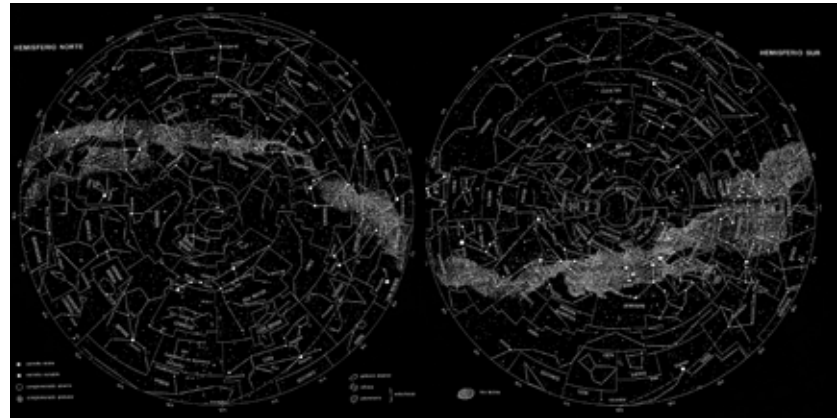
CASE: 58 星座 — 新たなつながりを見出す力 —



古代バビロニアの星座の呼称リスト。紀元前1000年頃に書かれ、66の星々と星座の名称が記載されている。
出典：Wikimedia Commons

POINT!

点を線でつなぎ、意味を見出す力から人は物語を紡いできた。膨大な素材の中から新しい価値を見出す際に、意味のないものをつなぎ合わせる力が生きてくる。



88の星座と境界線。現在では、すべての星はいずれかの星座に必ず属している。©Shadowfox (CC BY-SA 4.0)

138億年前に誕生した宇宙は、その後、水素とヘリウムが漂う中に恒星が生まれ、そして星々が形成されていきました。

星座の起源は、紀元前2100年頃の古代エジプトにあると考えられています。古代エジプトでは、デカンと呼ばれる36組の小さな星座が暦の中で用いられていました。また、古代ギリヤでは、神話と星座が接続し、すべての星座に神話が存在します。

中国では、紀元前8〜6世紀に星官と呼ばれる星々のグループが生まれました。天球（地球から見える星の方向を示すための仮想の球面）の領域を、1年間通して見える三垣と年間を通じて移り変わる28宿に分け、その中に星官が配置されました。星官は、北極星を皇帝として、皇族や官僚、軍隊などから構成される星々の社会が表されています。3世紀には、陳卓によって283星官1464星にまとめられ、その後現代まで続いています。

古代ギリシャでも、紀元前4世紀に天文学者エウドクソスが現在の星座につながる44星座をまとめました。その後、紀元前2世紀にプトレマイオスがまとめた48星座は16世紀まで変えられることなく用いられるようになります。その後、16世紀に入ると大航海時代を経て、ヨーロッパでは見ることができなかった南半球で観測される星々が加えられるようになります。1922年



にしむら・ゆうや ● NPO法人ミラツク代表理事。
大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future, we already have(すでに在る未来の可能性を実現する)をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
<http://emerging-future.org>

に国際天文学連合の第1回総会が行われ、北半球・南半球の両方で観られる星座、計88個とその名称を確認し、これが現在の公式な星座として認識されています。

エジプトの36のデカン、中国の283の星官、古代ギリシャからつながる88の星座は、すべて同じ星々を見ながら描かれた異なるつながりと意味付けでした。日本でも、現在のさそり座をやなぎや釣り針、またカシオペア座をイカリや網曳きなど、さまざまな異なる捉え方と名称が残されています。

人は、距離も大きさも異なる星に対して、さまざまな意味を見出ししてきました。

意味のないものに意味を見出し、物語をつくることは、人が古代から発揮してきた創造的な力です。情報が爆発的に増えた現代において、それらの中に新しいつながりを見出すことが求められています。そしてその力は、私たちが星々を見ながら培ってきた力が活かされています。